

職場における交通安全指導 Part.4

交差点の安全な通過方法～信号機のない交差点～

「信号機のない交差点」は、交通量が少なく道路幅員が狭いのが特徴で、通行方法には一定の規則（一時停止標識等）がありますが、ドライバーの安全運転の方法、態度によってその安全度が決まります。特に生活道路などに多い見通しの悪い交差点では、より一層の安全確認が必要です。

《信号機のない交差点の安全通過～一時停止を確実に》

組合に報告される信号機のない交差点での車対車の事故の半数以上が出合頭事故で、その原因の大半はドライバーが「うっかり」「ぼんやり」して標識、標示を見落とししたり、あるいは「車は来ないだろう」と安易に考え、一時停止や徐行を怠り、交差点に進行したために発生しています。（図1）

～指導のポイント～

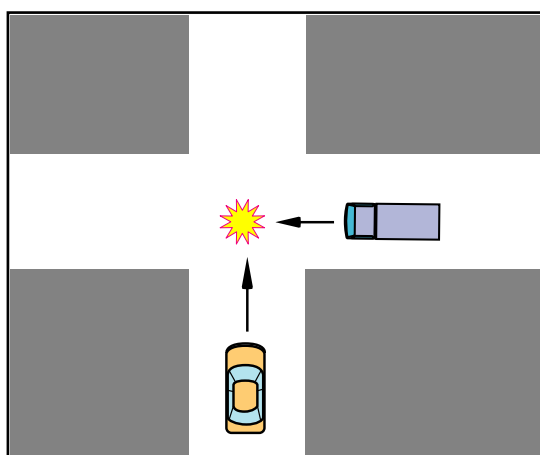
確実な一時停止と左右の安全確認を励行することは当然ですが、特に見通しの悪い交差点では、単に停止するだけでなく、「自分の車と同時に交差点内に進入してくる車がいる」という姿勢で、左右に気を配りながら、歩く位の速度で車を出し、確認が確実にできる位置で再度停止する慎重な対応を行うことがポイントとなります。また、夜間であればライトを上下させ、相手に注意を促すとともに、自分の存在を相手に知らせることも必要でしょう。

交通量が少ない場合、「車は来ないだろう」とか「まさかこんな時間にこんな場所を通る車はいない」と勝手に考えて、漫然と交差点に進入したため出会い頭に事故を起こすドライバーもいます。このような場合、見込みによる進入は絶対にしないで、「車は来る」、「車はいる」という考えで運転する習慣を身に付けるよう、管理者は常に指導することが必要です。

生活道路と呼ばれている裏通りの交差点は、標識等の設置もなく、見通しが悪い場所が多く、歩行者、特に子供や自転車の飛び出してくる危険なところです。（図2）

こうした場所では、スピードを控え目に、足はブレーキペダルの上に乗せて、何事でもすぐ止まれる準備をしておくことが大切です。

～図1～



～図2～

